

## 理科・環境教育助成 成果報告書

第3回 期間：2005年11月～2006年10月

氏名： 矢野公一 所属： 朝倉市立蜷城小学校

課題名： 主体的に環境問題に取り組む子供の育成 ～ふるさとの川体験を通して～

### 1. 課題の主旨

校区を流れる河川の環境の汚染に係る変化を、3つの河川の中の桂川の歴史をひもとき、自分たちの生活との関わりを追求していくことで、子どもたちにこれからの環境問題への意識を高める。

### 2. 活動状況

- 18年3月の桂川ごみ拾いにボランティア参加をさせたことで、ごみの様子や多さについて学級での話題になり、意識を高めることができていた。
- 5年生の図画・工作の春のスケッチで桂川を対象にして描かせ、河川の自然の美しさやごみ等について気づかせ、川の環境改善への意識をもたせた。
- 活動計画を教師・児童で作成した。

| 時期  | 活動内容               | 活動領域         | 関連活動           |
|-----|--------------------|--------------|----------------|
| 5月  | 桂川のある風景のスケッチ・観察    | 図工           |                |
| 5月  | 古代体験あさくら子供の日参加 魚取り | 総合           |                |
| 6月  | 桂川の源流探検 荷原川観察 魚取り  | 総合           | 田植え            |
| 7月  | 桂川下流域の水中観察、水遊び     | 課外           | 川体験学習<br>菊植え付け |
| 9月  | 桂川中流域川舟から観察 魚取り    | 総合           |                |
| 10月 | 活動のまとめ作成           | 総合           |                |
| 11月 | 桂川河川ごみ拾いに参加        | 課外ボラン<br>ティア | 稲刈り<br>菊搬入     |
| 1月  | 蜷城地区文化祭で発表         | 課外           |                |

### ○ 計画に基づく活動と子供の気づき等

| 時期        | 活動内容                  | 子供の気づき（学びの様子や感想）   |
|-----------|-----------------------|--|
| 5月<br>30日 | 古代体験あさくら子供の日参加<br>魚取り | 岸辺の水草や藻の中に魚がいた。みんなで追い込み漁をした。みんなで息を合わせて協力したがなかなか取れなかった。やっと数匹、ドンボなどが取れた。 |
| 6月<br>5日  | 桂川の源流探検<br>荷原川観察魚取    | 上流にはサワガニやオタマジャクシ、ハヤがいた。川にごみが無く、水はきれいで冷たくて気持ちよかった。                      |

|            |                          |   |
|------------|--------------------------|---|
| 7月<br>16日  | 桂川下流域の水<br>中観察、水遊び       | 荷原川と桂川の合流地点は、洗剤の泡があった。人が川を汚している。ライギョがいた。すんでいる魚によって川の水がきれいかどうか分かる。これからも自然を守っていきたい。 |
| 7月<br>18日  | 2回目の桂川上<br>流観察、山田堰見<br>学 | 川を生かす人の知恵がすごい。石を積んで、筑後川の水を追い込み、徐々に水をきれいにし、用水に流している。                               |
| 10月<br>11日 | 桂川中流域川舟<br>から観察 魚取<br>り  | 藻がある所に魚がたくさんいた。きれいな所と汚い所が交互にあった。生物表で見ると、汚い所にも4点の生き物がいて、本当はきれいということが分かった。          |
| 10月        | 活動のまとめ作<br>成             | 私たちの川は自然に守られていて、生き物もたくさんいた。また、人の知恵が生かされた川であった。これから自分たちがこの川をきれいに守っていきたい。           |
| 11月<br>19日 | 桂川河川ごみ拾<br>いに参加          | 雨天と川の増水のため、中止。3月にも行うとのことで、参加していきたい。   |
| 1月<br>28日  | 蜷城地区文化祭<br>で発表           |   |

### 3. 結果

以下の児童の理解を図ることを通して、川に流れる水をきれいにするために家庭でできることを実行したり、地域ボランティアの川清掃活動に進んで関わろうとしたりする意欲を高めることができた。

※ 児童が理解したり、味わったりした主なこと

- 川の上流と下流の違いを体験して感じ、水温との関係で棲み分けしている生き物がいることや下流を中心に生息する魚も水中の地形を利用して生きていることを理解することができた。
- 約10km上流の筑後川の水を堰を作って稲作に活用した後、桂川に流れ込んでいることを理解するとともに、先人の努力や知恵を感じることができた。
- 川に流れ込んでいるごみには、空き缶や食料の空パック、ビニールのほか、農業用の資材（ハウス用のビニールや鉄パイプなど）も多いことが分かった。
- 地域の方も桂川をきれいにするために、ボランティアを5年以上取り組んであることを知り、いっしょに取り組みたいという意欲をもつことができた。

#### 今後の課題と発展

この5年生の児童については、ニッサンからの助成をもとに理解を深めることができた。しかし、他の学年児童について、川への関心を6年間継続・発展させ、郷土の川を大切にする心情や態度を養っていかなければならない。そのため、子供にとって関心を持たせ易い魚（オイカワ・オヤニラミ・ドンコ・クロメダカ等）を学校教育環境の1つとして整備していくこと。  
地域ボランティアから川舟を生かした観察活動への援助の継続を取り付けること

#### 4. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

この活動を通して子どもたちの身近な川に対する関心を今後も持続させたいので、桂川にいる魚や水草などを側面から観察させる水槽を設置したいと願っている。設計図は別添設計事務所に作成を依頼した。費用を概算で出していただいた。貴財団から頂いた助成金の一部をそのために使わせていただきたいので、よろしくお願いします。